

天声人語

そこは爆撃にさらされるシリアのまちである。崩壊した家屋の下から、若者たちが本を掘り出そうとしている。命がけで汚れをぬぐい、破れたところを繕う。いったい何のため？ 図

書館をつくるのだ▼民主化の動きをアサド政権が弾圧したところから始まったのが、シリア内戦である。政権軍に抵抗して戦うダラヤのまちに、手作りの図書館があった。フランスのジャーナリストがネット回線を通じて取材し、書き上げた『シリアの秘密図書館』で知った▼歴史から心理学、児童文学まで蔵書は1万5千冊に及んだ。戦場で本にかけりつく若者の多くは、それまで読書が好きではなかったという。「本を読むのは、何よりもまず人間であり続けるためです」との言葉が突き刺さってくる▼シリアの各地で戦闘が起きてから、この春で7年となる。犠牲者は35万人にのぼり、民間人が3分の1を占めるともいわれる。「今世紀最大の人道危機」と言いながら、何もできていない国際社会があり、私たちがいる▼シリアの人々の前にあるのは、あまりに過酷で不条理な現実であろう。そのなかで正気を保ち、未来を思い描くために書物が求められたのか。異常な環境下でも思づく精神の営みがある。そんな人たちを押しつぶす暴力が続いている。秘密の図書館は今ももう存在しない▼図書館に本を取めるとき、若者たちは元の持ち主の名前を書いていったという。戦争が終わったら所有者の手に戻るようにと。そんな日が来ることを祈る。

2018・4・3

書評 続々!

朝日新聞

「天声人語」

日経新聞

読売新聞

東京新聞他

絶望の町で本を救い、
本に救われた
人々がいた。

大反響！感動の ノンフィクション

シリアの秘密図書館

瓦礫から取り出した本で図書館を作った人々

デルフィーヌ・ミヌーイ / 藤田真利子訳

東京創元社